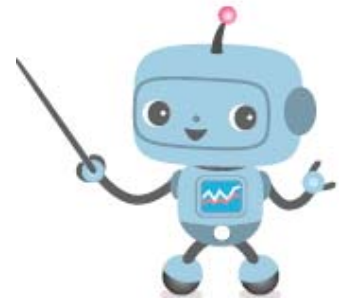


少額からの長期分散投資を後押しする「つみたてNISA」本格スタート、申込 25 万件！

2018年1月1日から「つみたてNISA」が本格始動した(口座開設申込み受付は2017年10月1日開始)。1月4日、東京証券取引所で開催された大発会の式典に出席した麻生太郎財務相兼金融担当相は、1月1日から始まった「つみたてNISA」について「**少額からの長期分散投資を後押しする制度として普及を図りたい**」と語った(2018年1月4日付共同通信～URLは後述[参考ホームページ]①参照)。



金融庁の
つみたてNISAキャラクター
「最新つみたてロボット
T-213(ニイサ)」

その中、2018年1月12日付日本経済新聞電子版は「つみたてNISA」の口座数について、**主な証券・銀行12社のつみたてNISA口座申込件数は、2017年12月末時点で約25万件、ネット証券経由の申込みが多かったと報じた(日本経済新聞社の聞き取り調査～URLは後述[参考ホームページ]②参照)**。同記事には「『つみたてNISA』は投資上限額が小さいものの、『iDeCoに比べ手続きが煩雑でないことも後押ししている』とみている。申込者の内訳は既存のNISAから乗り換えた顧客が約4割で、残りの約6割は新規顧客などが占める。年齢層は30～40代が中心で、40代がコアのiDeCoよりも若い世代が多い。」と言う意見もあった。

「つみたてNISA」の申込件数が25万件だった事は、NISA(一般NISA)の制度導入時点(2014年1月1日)の総口座数約475万口座と比べれば少ない様に思われる。一般NISAは導入から2年3カ月の2016年3月末時点で1000万口座を超え、最新2017年9月末時点で約1102万口座と着実に普及している。ただ、一般NISAや「つみたてNISA」と異なり未成年者を対象とするジュニアNISAは、2016年4月1日のスタート当初の口座数が約7.8万件だった事に比べれば多い(以上、各NISAの総口座数は金融庁HPより～URLは後述[参考ホームページ]③参照)。

投資の経験者はNISA投資を比較的始めやすいのに対し、「つみたてNISA」は投資未経験層や初心者などに適した制度になっており、こうした層が投資を始めるには経験層に比べて金融機関の手間もかかり、時間もかかる事も一般NISAより少ない要因と思われる。日本証券業協会の鈴木茂晴会長は「『つみたてNISA』を地道に推進し、若年層や投資未経験層に証券投資による成功体験を積んでもらうことにより、個人の金融資産が投資へと大きく動くことを期待している。…(略)…。地道な努力が必要なので、従来のNISAのようにあっという間に1,000万口座に達することはないであろう。」(2017年12月20日付日本証券業協会の会長記者会見～URLは後述[参考ホームページ]④参照)と述べていた通りである。

日本のNISAの対象商品は投資信託だけで130本以上あり何に投資すべきか悩む

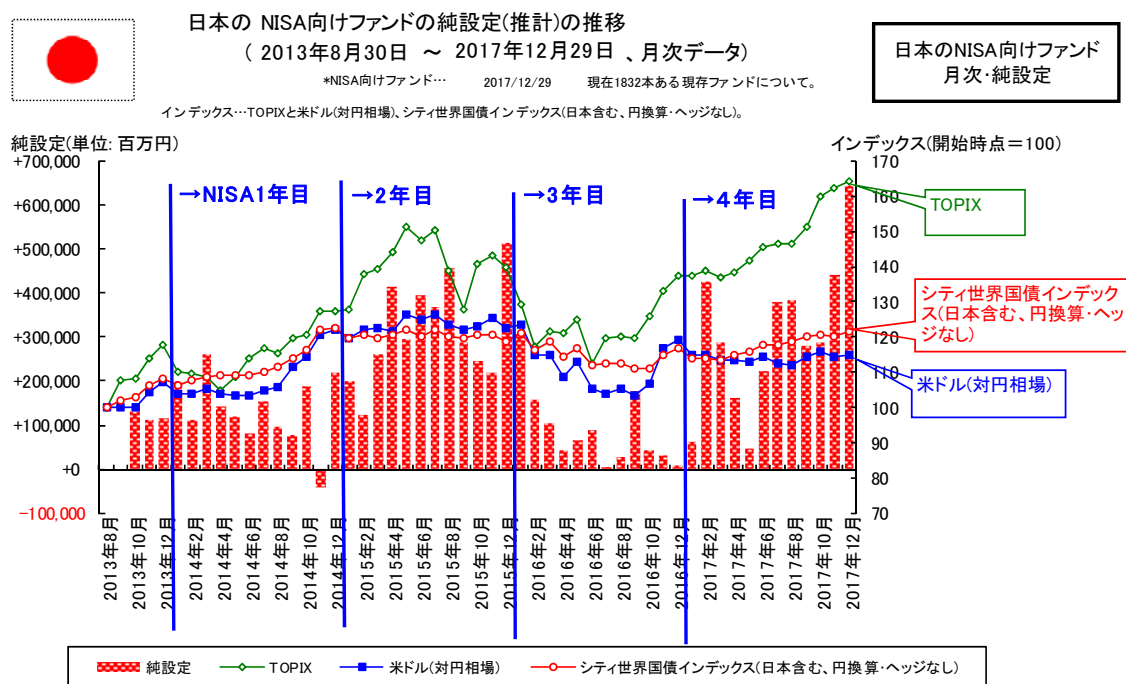
口座開設の次は何を買うかだ。日本の「つみたてNISA」の対象商品は投資信託138本(公募投信135本、ETF3本～2018年1月12日時点、後述※1参照)と一般NISAなどに比べればかなり選択肢は少ないが、それでも何に投資すべきか悩む所。投資未経験層や初心者が多い事から一層そうであろう。そこで今回も投信のデータを使い、これまで一般NISAで何が買われてきたかを見る事とする。

一般 NISA の投資家を、既存投資家と、投資未経験者或いは久々に投資を行う層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者(新規投資家)は NISA 向けファンド(後述※2 参照)で代替する。一般 NISA は投信以外の株式等にも投資できるが、一般 NISA の買付額の 6 割が投信となっている(*NISA 開始の 2014 年 1 月から 2017 年 9 月までの買付総額は 11 兆 8716 億円で、うち、投信 60.0%、上場株式 37.4%、ETF1.6%、REIT1.0%~URL は後述[参考ホームページ]③参照)。

※1: つみたて NISA の対象商品…つみたて NISA で投資できる商品は、金融庁が承認した投資信託に限られる。具体的には、販売手数料が無料(0%)、信託報酬が最大で 1.5%以下などの金融庁が示す要件を満たす投資信託。2016 年 11 月末時点で、要件に該当する投資信託は約 50 本と、公募投信(約 5000 本)のわずか 1%だったが、2017 年 7 月末には 120 本に増加(事前相談数)。正式な届出の初日 2017 年 10 月 2 日時点で公募投信 103 本、最新 2018 年 1 月 12 日時点では公募投信 135 本、ETF3 本である(うち指定インデックス投信 120 本、アクティブ運用投信等 15 本)。以上、金融庁が示す要件や個別ファンド名など詳細および更新情報は金融庁 HP 参照(URL は後述[参考ホームページ]⑤参照)。また、2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」、2017 年 9 月 11 日付日本版 ISA の道 その 195「つみたて NISA 対象(仮確定)商品」は 114 本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!! その中、現行 NISA で 8 月に投資された先は?」も参照の事(URL は後述[参考ホームページ]⑥参照)。

NISA 新規投資家では 12 月過去最大の純流入! グローバル株やエマージング株、アセットアロケーションが人気

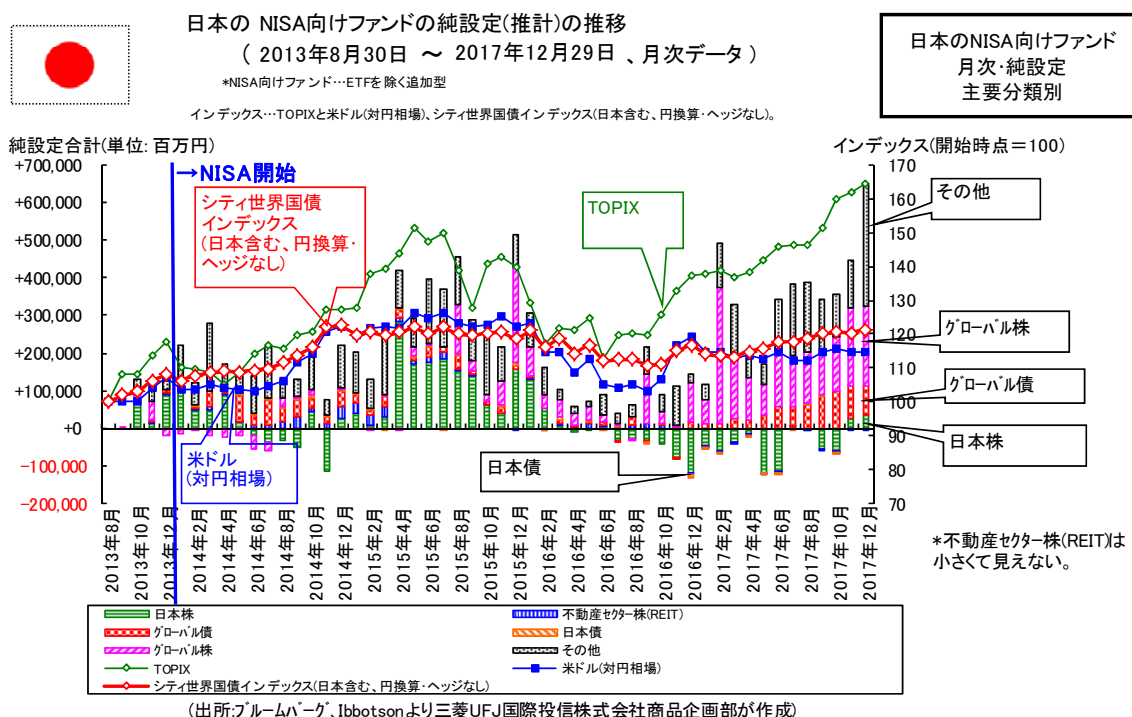
まず新規投資家を示す NISA 向けファンド(後述※2 参照)の純設定を見る。 **NISA 向けファンドの純設定は、最新 2017 年 12 月に+6427 億円と、NISA 投資の始まった 2014 年 1 月以来最大の純流入**である(2015 年 12 月の+5108 億円がこれまでの最大)。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

※2: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]⑦)、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2017 年 12 月 29 日時点で 1833 本となった。

過去最大の純流入となった NISA 向けファンドを投資対象(主要分類)別で見ると、**2017 年 12 月の純設定 1 位はグローバル株(10 月から 3 ヶ月連続 1 位)、2 位はエマージング株(前月 11 月 5 位)、3 位はアセットアロケーション柔軟型(10 月から 3 ヶ月連続 3 位)、4 位はグローバル債(11 月 2 位)、5 位はインド株(11 月 11 位)だった**(下記グラフ参照。エマージング株とアセットアロケーション型、インド株は「その他」に含まれる)。



また、2017 年の 1 年間(1 月~12 月)で見ると、最大の純設定は**グローバル株**、次いで、**アセットアロケーション柔軟型(1・2 位は 2 年連続)**、**グローバル債(2016 年は 5 位)**、**エマージング株(2016 年 24 位)**、**米国大型ブレンド株(2016 年 13 位)**、**アセットアロケーション債重型(2016 年 3 位)だった。**

2017 年 12 月および 2017 年の年間を通じて純設定最大だったのが**グローバル株**である。NISA 向けファンドで**グローバル株**は 2015 年・2016 年の純設定が各々+5000 億円程度だったが、2017 年は+1.9 兆円近くに膨れ上がった。NISA 向けファンド全体の純設定は 2017 年に+3 兆 4557 億円と NISA 開始以来で 2015 年(+3 兆 7684 億円)に次ぐ 2 番目の大きさだったが、その半数超(54.5%)が**グローバル株**だった。2015 年の**グローバル株**の純設定は NISA 向けファンド全体の 2 割弱(15.1%)でしかなかった。

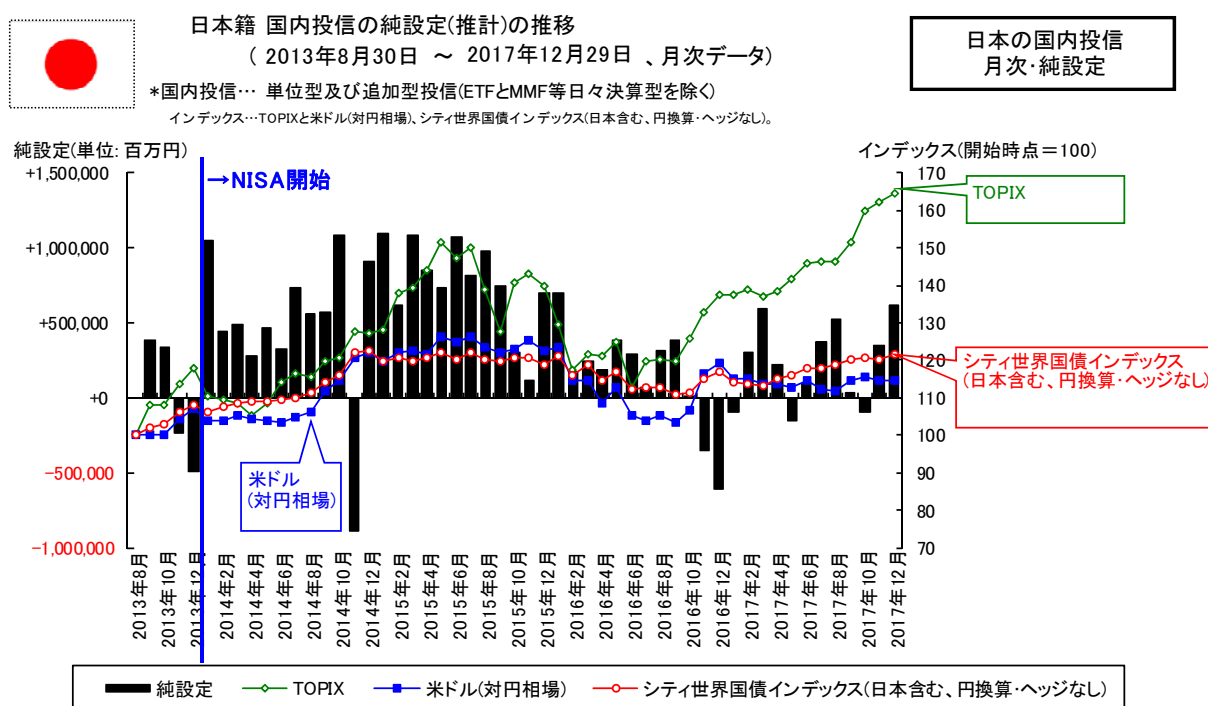
一方、2015年の年間純設定額が最大(+1.3兆円)だった日本株を見ると、2016年頃から純流出に転じ、株高を背景とする利益確定で2017年も純流出が続いていたが、足元2017年11月に4カ月ぶり純流入に転じ、最新12月も2016年2月以来の連続純流入となっており、再び資金純流入が続く兆しも見られる。

12月2番目に純設定の大きかったのはエマージング株で、2015年後半から長く純流出が続いていたのが、2017年に純流入へ転じ、最新12月は新規設定ファンドの大型設定もあり、10カ月連続の純流入となっている。

3番目に純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型はNISA導入開始以降5年間、毎月の連続純流入で、安定的な資金純流入が続いている。

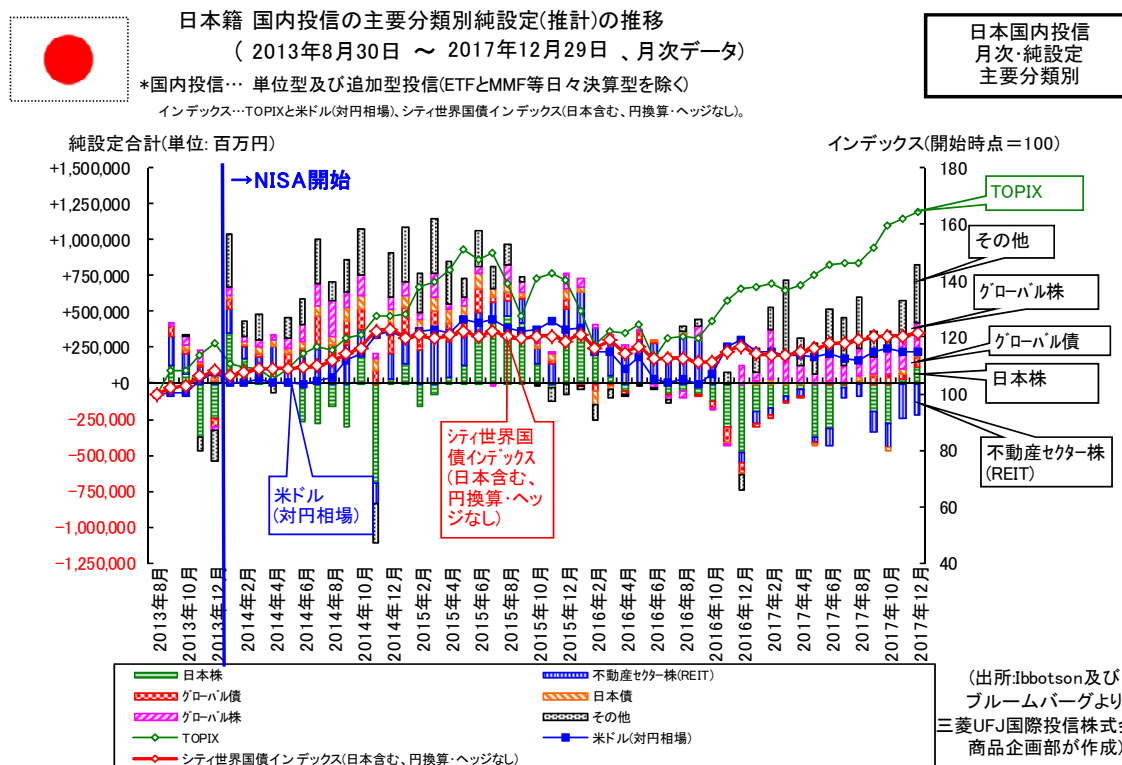
NISA 既存投資家ではグローバル株やエマージング株、日本株

次にNISAの既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は2017年12月に+6164億円と、前月11月の+3473億円を上回る2カ月連続の資金純流入となった。12月の純流入額は2016年1月(+6977億円)以来、1年11カ月ぶりの大きさである。この2017年12月の既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

2017年12月に最も純設定の大きかったのはグローバル株、次いで、エマージング株、日本株、インド株、その他アロケーション型、グローバル債だった(次頁グラフ参照 *主要分類…モーニングスターによる分類で2016年12月末の純資産の大きい上位5分類。エマージング株、インド株、アロケーション型は「その他」に含まれる)。また、2017年の1年間(1月~12月)で見ると、最大の純設定はグローバル株、次いで、アセットアロケーション柔軟型、インド株、アジア株(除く日本)、エマージング債、その他アロケーション型だった。

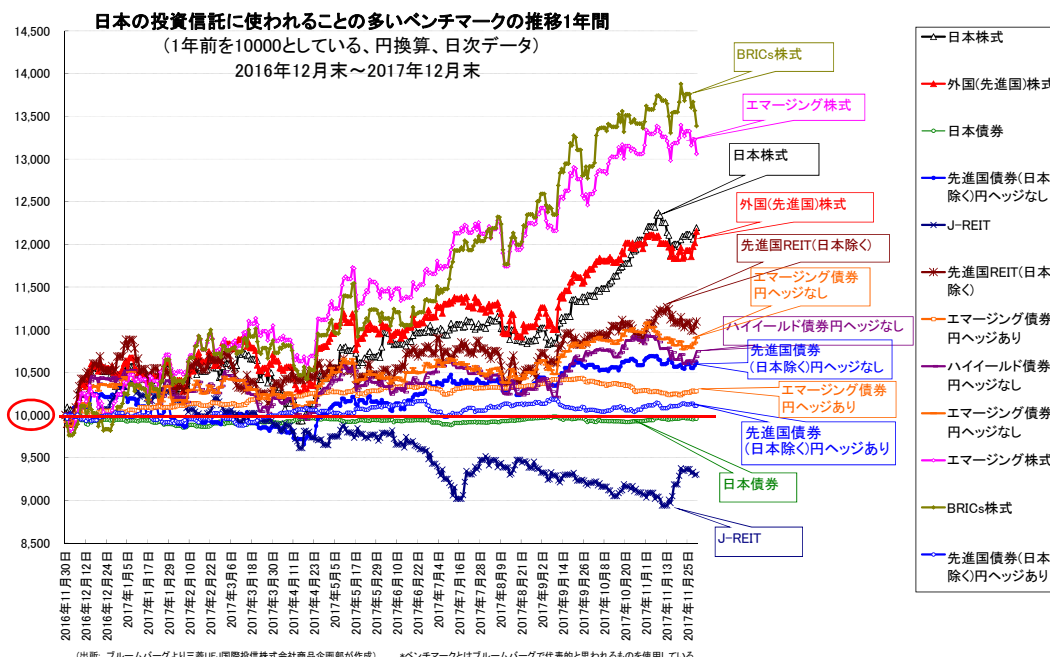


投信全体で、NISA 向けファンドと同様、12月に純設定が最も大きかったグローバル株は、6月から7カ月連続1位で、12月は+2229億円と1年1カ月連続の純流入、2017年は年間+2.0兆円と、昨年2016年(+3042億円)の約6倍強の純流入となった。そしてグローバル株に次いで12月に純設定の大きかったエマージング株は、2017年5月から8カ月連続の純流入で、2017年の年間では約2950億円の純流入と、昨年2016年(-1631億円)から大きく純流入に転じている。

12月3番目に純設定の大きかった日本株は2015年に年間2.2兆円の資金純流入だったのが、2016年7月以降、反転し、2016年は年間4260億円の純流出となった。2017年は11月に純流入へ転じ12月(+1197億円)は純流入が加速したものの、年初来では約1.5兆円の純流出となっている。

2017年の年間でグローバル株に次いで純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型だが、2016年は低調だったのが、2017年に入り、純流入が増加、12月は計+618億円と13カ月連続の純流入で、2017年は年間で+5248億円とアロケーション型全体(約+1.2兆円)の約4割を占めている。

日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、次頁グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs株式、エマージング株式、日本株式、先進国株式、エマージング債円ヘッジなし、先進国REIT、先進国債券円ヘッジなしとなっている(*1年前を10000、円換算、日次データ)。



1年のパフォーマンスの最も良い BRICs およびエマーヅング株式は、2017年6月末からの半年や2017年12月1カ月でも上記グラフのベンチマーク中、最も良いパフォーマンスだったが、5年では上から5番目および7番目となり、先進国株式や日本株式を下回っていた。

次頁グラフは5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、日本株式、先進国 REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、BRICs 株式、エマーヅング債円ヘッジなしとなっている(*5年前を10000、円換算、月末データ)。5年では次頁グラフのベンチマークで最も良い先進国株式のパフォーマンスは、3年や1年、2017年6月末からの半年、2017年9月末からの3カ月いずれの期間でも、エマーヅング株式や BRICs 株式、日本株式に次いで4番目に好かった。5年のパフォーマンスが2番目に好かった日本株は3年でも2番目、1年や2017年6月末からの半年で3番目、2017年9月末からの3カ月で最も好かった。12月は新規投資家と既存投資家ともにグローバル株やエマーヅング株、既存投資家に日本株が人気だったが、こうしたパフォーマンスの好きが背景にある様にも見える。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。